

# 林研グループとの連携による地域林業の振興について

山形県庄内総合支庁森林整備課 林業普及指導員 荘司 和也

## 1. はじめに

木材価格の低迷による林業の不振により、全国的に管理放棄森林が増加していることが問題となっている。山形県もその例外ではなく、森林所有者の林業離れが進んでおり、森林のもつ公益的機能の低下が懸念されている。

このような状況の中、平成19年に山形県庄内地域の林業経営者等が林研グループ「庄内林業研究会」を立ち上げ、荒廃林をなくすことを目標として、県と連携して様々な取り組みを行ってきた。今年で「庄内林業研究会」の立ち上げから10年となり、節目の年を迎えることから、県行政と庄内林業研究会が連携して行ってきたこれまでの活動の経過について、取りまとめを行い、実践方法やこれからの課題についての考察を行った。

## 2. 庄内林業研究会について

### (1) 概要

庄内林業研究会は山形県林業士会庄内支部のメンバーを中心に発足され、現在は林業士会以外の林業に興味のある一般の方も入会し、会員数は28名となっている。地域から荒廃林をなくすことを目標に、研修会の開催や会員の資質向上、情報交換などを行っている。



### (2) 会の特徴

活動エリアが庄内地域5市町全域と広範囲にわたり、メンバーそれぞれが所有林の特色に合わせた特用林産物の生産を行うなど、木材生産以外での森林の活用にも取り組んでおり、森林整備に関して各地域のリーダー的存在となっている。

### (3) 県行政との関わりについて

庄内林業研究会は、県行政に対して、研修会等の開催時に講師の派遣を行ったり、技術や知識の提供を行ったりしている。一方、県行政では庄内林業研究会の活動の支援や助言を行っており、それぞれ役割を持って活動を行っている。

## 3. 実践方法について

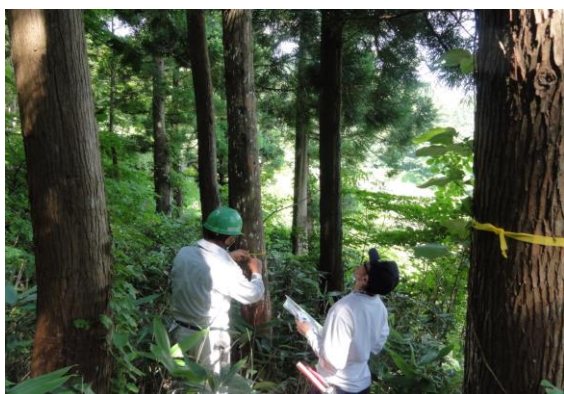
具体的な実践方法として、まず一つ目に、少しでも林業に興味を持ってもらうために「新規林業従事者の開拓」に関わる取り組みを行った。また、二つ目として、林業従事者の収入確保のために「特用林産物の活用」に関わる取り組みを行った。この二つの軸に基づいて行ってきた活動についてこれから紹介していく。

#### 4. 実践内容、実施結果について

##### (1) 新規林業従事者の開拓

###### ①休日林家支援

所有している林に手をかけたいという思いはあるものの、何をすればよいか分からないという森林所有者を対象に、林研グループの会員が林の調査・診断を行い、アドバイスや診断書の作成を行った。



森林の調査、診断



施業方法の説明

《成果》10年間で延べ20件の申し込みがあり、うち5名が庄内林業研究会への入会希望があった。

###### ②インターンシップ

就業前の高校生を対象にインターンシップを開催し、林業体験や意見交換などを行った。



森林施業体験（玉切り）



学生との意見交換

《成果》4年間で2名の新卒採用につながった。



### ③伐木技術研修会

樹木の伐倒作業に不慣れな森林所有者や興味のある方を対象に、毎年1，2回程度伐木技術の研修会を行った。



伐木作業の実演



チェーンソーの整備方法の説明

《成果》 直近の5年間で延べ166名の参加があった。

### (2) 特用林産物の活用

#### ①ワラビに関する研修会

全国でも山形県が生産量1位であるワラビについて、ポット苗づくりや植栽指導などの研修会を開催した。



ワラビのポット苗づくり



伐採跡地等への定植

#### ②竹林の管理研修会

荒廃竹林の整備方法やタケノコの栽培技術指導に関する研修会を開催した。



竹林の密度管理方法の説明



伐採した竹の処理方法の説明

### ③原木きのこの研修会

これからの林業を担っていく可能性のある緑の少年団の団員やきのこ栽培に興味のある森林所有者を対象に原木きのこの栽培研修会を開催した。



原木の伐採、玉切り



種駒の打ち込み

《成果》直近5年間の特用林産物の研修会全体で延べ482名の参加があった。また、研修後のアンケートでは、伐木技術等の研修にも参加したいという意見が多数寄せられた。

## 5. 考察

これまでの取り組みを基に、県行政が単独で研修会等を実施した場合と、林研グループと連携して実施した場合とでどのような違いがあるか考察を行ってみた。

まず、一つ目の違いとして、実際に現場で活躍している林研グループの会員が指導者となっているため、マニュアル等を参考にして話をしている県職員よりも、実体験を交えたより専門的な知識や技術を伝えることができると考えられる。研修会等の参加者の目線に立つと、失敗しやすい点や、苦勞する点なども聞くことができるため、より信頼できる内容になるのではないかと考えられる。

次に、二つ目の違いとして、指導者が身近にいることで、気軽に研修内容に関するアフターケアを依頼することができる環境が整うことが考えられる。また、指導者から直接話を聞くことで、研修会等で取り上げた内容だけでなく、興味のある他の分野についても発展していくことも多いとの報告がある。

最後に三つ目として指導者が一般の方に指導を行うことで、指導者自身のやる気向上やスキルアップにもつながっていくことが考えられる。指導を行い、スキルアップし、さらに指導を行うという好循環が生まれるため、結果的に優秀な指導者を育成することにもつながると考えられる。

これらのことから、県行政が単独で行う取り組みよりも高く、多様な効果が出ると考えられる。

## 6. 課題

十分な効果が出ると考えられる一方で、様々な課題も浮き彫りになってきている。



まず、ベテランの指導者が高齢化していることから、今後の指導者不足が懸念されてきている。毎回同じ指導者にお願いすることが多く、その人がやめてしまうと誰も指導できない状況になってしまう分野も出てきてしまっている。そのため、これからは新たな指導者の育成が必要となっている。

次に、特用林産物の研修を行ったとしても、畑やハウスでの栽培にとどまり、林の中まで入っていかないケースがあることが問題となっている。これに対しては、研修内容を吟味し、森林施業と関連付ける工夫が必要となっている。

最後に、林研グループと連携するにあたり、県が主体で取り組みを進めていくことになりがちで、林研グループが主体となった活動が実施されにくい状況になってしまうことがある。これに対しては、林研グループが自主的に取り組みを進めていける体制を整えたうえで、実施していく必要がある。

## 7. おわりに

これらの課題に対して、今年度から勉強会や新たな取り組みを実施する試みがなされている。庄内林業研究会には、今年度も新規会員が入り、以前よりもさらに活動に幅が出てきているので、視野を広く持ち、地域林業の振興に向けて今後も継続して、取り組みを実施していきたいと考えている。



スキルアップ勉強会の開催



都市部への山菜出荷に向けた検討会